

2.6 SSH授業報告（英語分野）

(1) 研究開発の課題・方針

普通の授業とは違い、科学を中心に、近年内外で話題となった様々な社会問題をテーマとして扱った英語教材を選んだ。生徒が内容に興味を持てる、やや難易度の高い英文の教材を選択した。その英文を読みながら、専門用語に慣れさせ、教材のテーマを掘り下げ、その論理をふまえた上で、自身の意見を論理的に述べることを主眼とした。

(2) 授業内容

テキスト 『Outlook on Science and Technology: Skills for Better Reading III』（南雲堂）用いて、下記のテーマについて学習した。

講読1（テキスト）	「科学と企業」について読む
講読2（テキスト）	「携帯メール」について読む
講読4（テキスト）	「GM フード」について読む
講読5（テキスト）	「地球寒冷化」について読む
講読7（テキスト）	「ブラウザ戦争」について読む
講読8（テキスト）	「英国の科学教育」について読む
講読9（テキスト）	「皮肉と脳」について読む
講読10（テキスト）	「暗黒物質」について読む
講読11（テキスト）	「オタク」について読む
講読12（テキスト）	「ネズミとパニック」について読む

それぞれの英文に用いられたパラグラフ構造は下記の通りであり、3学期には、各自がテーマを選び、構成を意識したエッセイを課す。

作文・ディスカッション	Reasons/Conclusion の構造
作文・ディスカッション	Analysis の構造で書く
作文・ディスカッション	Analysis (Evidence) の構造で書く
作文・ディスカッション	Controversy の構造で書く
作文・ディスカッション	Comparison/Contrast の構造で書く
作文・ディスカッション	Classification の構造で書く
作文・ディスカッション	Chronological Order (History) の構造で書く
作文・ディスカッション	Cause & Effect の構造で書く
作文・ディスカッション	Process Analysis の構造で書く
作文・ディスカッション	Explanation (Theory) の構造で書く
作文・ディスカッション	Definition の構造で書く
作文・ディスカッション	Explanation (Experiment) の構造で書く

(3) 評価

毎学期の実力考査で語彙・内容に関する評価を実施した。またエッセイライティングの評価として、3学期半ばに今まで読んだテキストのいろいろな話題から、興味のある題目を選ばせ、本文の内容に感銘したこと、及びそれに付け加える知見を英語で100語程度を課し、基本的な英語力と学習した英語の論文の構成等で ALT もまじえて実施予定である。

(4) 検証（結果と反省）

1 クラス（41名）を抽出し、下記の項目についてアンケートを実施した。

- ① 授業やテキストを通じて、科学的用語の英語の語彙が増えましたか？
はい（93%） いいえ（7%）
- ② 扱った題材には興味関心を持ちましたか？
はい（93%） いいえ（7%）
- ③ このテキストの英文難易度は
難しい（12%） ちょうど良い（72%） 易しい（15%）
- ④ このテキストを通じて、海外の事情を知り、国際的な視点をもつことが出来たか？
はい（56%） いいえ（44%）
- ⑤ 今後さらにやってみたいことは？（複数回答可）
 - 1 さらに読解の量を増やす（50%）
 - 2 自分が興味のある科学分野の論文を書く（17%）
 - 3 自分が興味のある分野についてプレゼンテーション（0.5%）
 - 4 その他
・もっと論文を読む、調べる

まずは、語彙力の強化を意識した教材と授業の展開であったが、適時課題や考査を実施することでこの目標は達成された。扱った題材で特に生徒の関心が高かったのものに「暗黒物質(Dark Matter)」「オタク(Nerd)」があった。生徒の視点は教材を通して多岐に広がりつつあると言えよう。論文を書いたり、プレゼンテーションをする経験は、まだ少ないので、次年度以降にこれらの活動をもっと取り入れていきたい。生徒自身も将来の目標のひとつに挙げる英語を用いたプレゼンテーションができるためには、まずはその科学分野の正確な知識を蓄積させ、そのうえでツールとしての英語運用能力を高めるように指導していきたい。